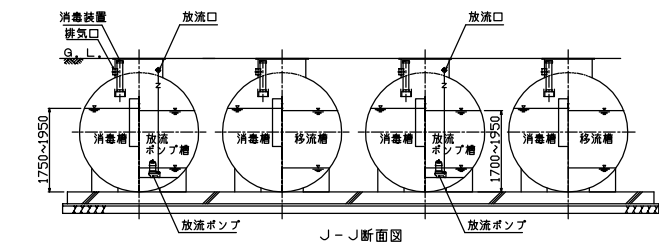
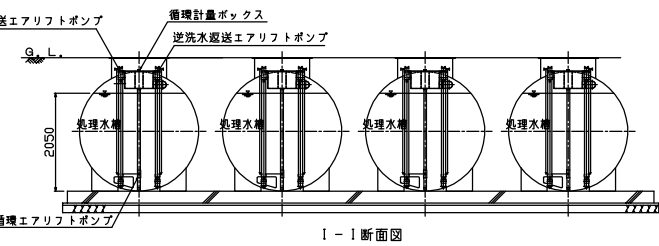
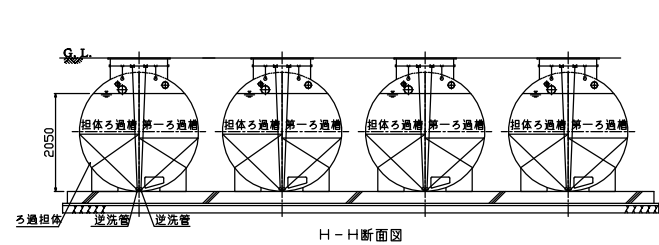
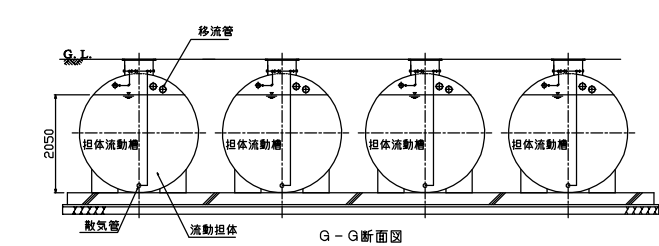
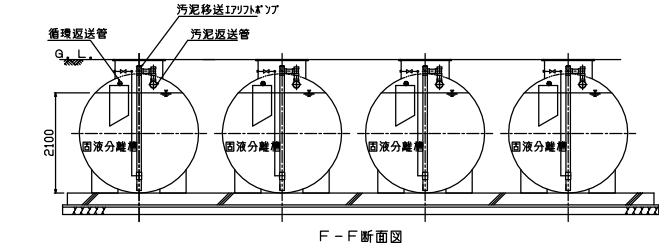
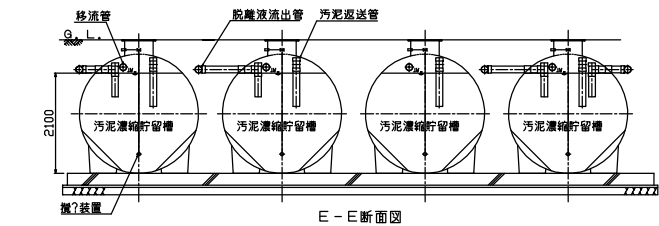
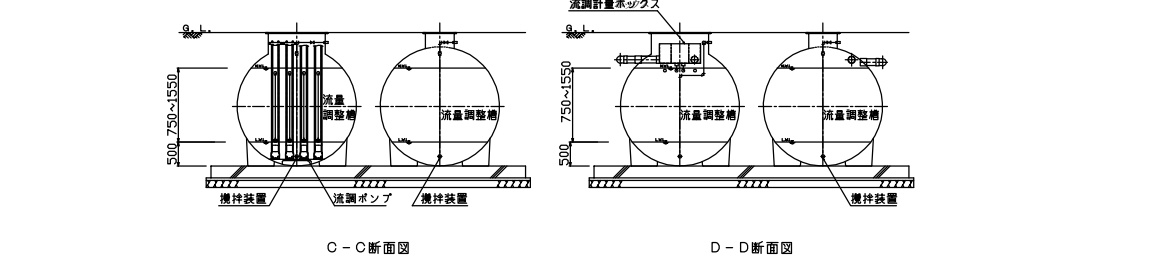
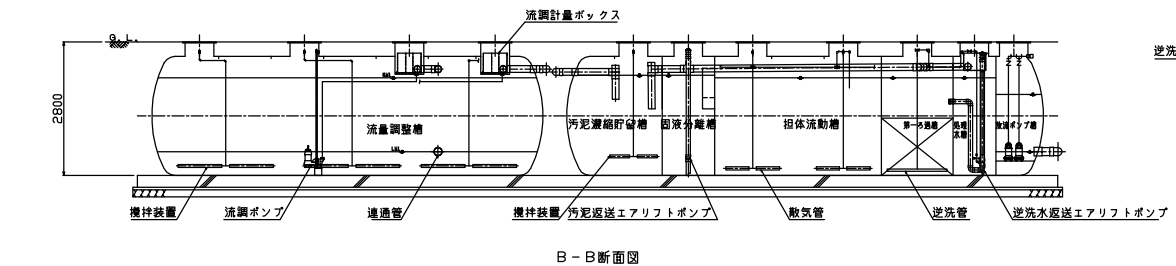
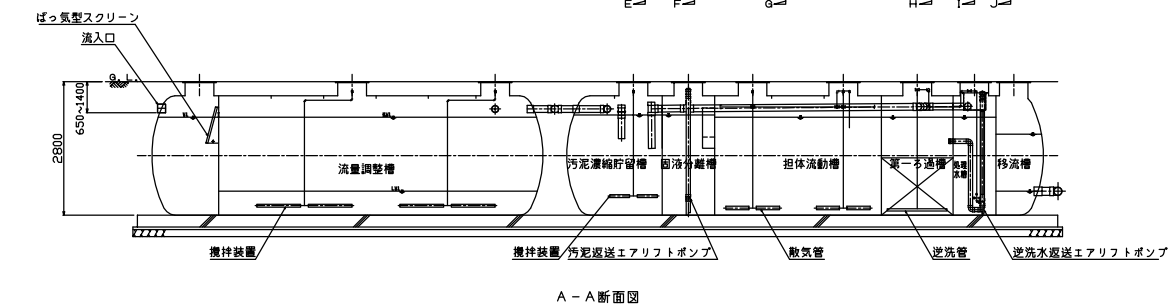
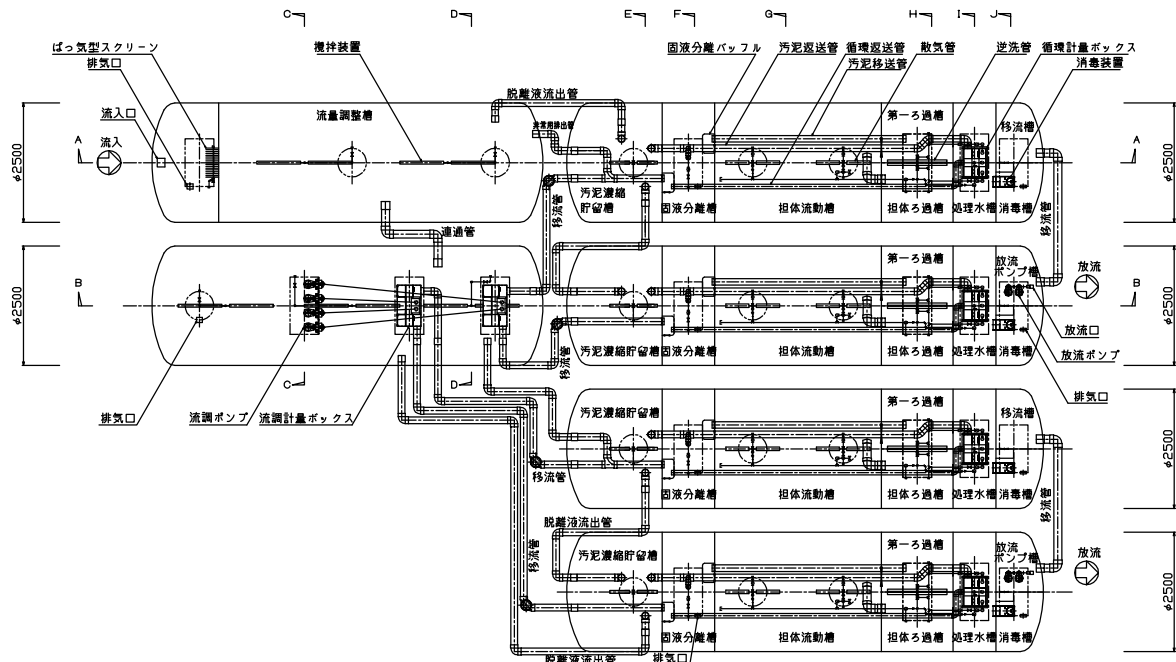


型式適合認定書別添仕様書及び図面

建築基準法施行令第35条第1項の大臣認定による流量調整型担体流動ろ過循環方式
【大臣認定番号（認定年月日）：DW3N-0169（平成30年6月12日）】

会社名		株式会社 クボタ			
		〒556-8601 大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号 電話06-6648-2111			
型 式		クボタ浄化槽 KRZ-AB			
型式適合認定番号		型01CafOa1054710	認定年月日	令和3年12月24日	
処理対象人員		51人～500人	日平均汚水量	10.2～300.0m ³ /日	
流 入 B O D		50～450mg/L			
放 流 水 質		大臣認定による性能：BOD 20mg/L 以下、COD 30mg/L 以下 SS 10mg/L 以下、pH 5.8～8.6 大腸菌群数3,000個/cm ³ 以下 n-ヘキサン抽出物質 20mg/L 以下			
仕様表					
有効容量	ばっ気型スクリーン	0.590～10.870			
	流量調整槽	4.976～251.056			
	固液分離槽	3.520～73.936			
	第一ろ過槽	1.589～33.381			
	担体流動槽	3.445～135.670			
	担体ろ過槽	1.589～33.381			
	処理水槽	3.876～81.402			
(m ³)	消毒槽	放流ポンプ槽付き 1.551～32.571、自然放流 1.551～36.410			
	汚泥濃縮貯留槽	3.911～465.201			
寸法	ばっ気型スクリーン	幅900～2500	長さ750～3800	深さ1000～1750	
	流量調整槽	幅2500	長さ3300～137200	深さ750～1550	
	固液分離槽	幅2500	長さ800～16800	深さ2100	
	第一ろ過槽	幅1250	長さ800～16800	深さ2050	
	担体流動槽	幅2500	長さ800～31500	深さ2050	
	担体ろ過槽	幅1250	長さ800～16800	深さ2050	
	処理水槽	幅2500	長さ900～18900	深さ2050	
	消毒槽	放流ポンプ槽付きW1250、L1000～21000×H1750 自然放流W1250、L1000～21000×H1750～1950			
	汚泥濃縮貯留槽	幅2500	長さ1100～116550	深さ2100	
	く 体	材質:FRP(ガラス繊維強化プラスチック) 板厚8mm以上			
仕切板	材質:FRP(ガラス繊維強化プラスチック) 板厚6～9mm以上				
材料	第一ろ過槽担体	形 状	中空円筒状		
		材 質	PPまたはPE		
		寸 法	φ 14～16×L15mm		
	担体流動槽担体	比 表面積	380m ² /m ³		
		BOD容積負荷	1.00kg/m ³ ・日以下		
		充 填 率	30～55%		
	担体ろ過槽担体	形 状	角形スポンジ状		
		材 質	PUまたはPVA		
		寸 法	20□×20mm		
	び 機 械 設 備	担体ろ過槽担体	比 表面積	300m ² /m ³ 以上	
形 状			中空円筒状		
材 質			PPまたはPE		
消毒槽		寸 法	φ 14～16×L15mm		
		比 表面積	380m ² /m ³		
		薬剤接触時間	15分以上		
毒槽		薬剤の種類と接触方法	塩素錠剤・浸漬式		
		薬剤の貯留日数	14日以上		
の 仕 様		送風機	ダイヤフラム式またはロータリー式またはルーツ式		
		吐出風量	60～12,840L/分		
	台 数	2台以上			
	流入管・移流管	材質	PVC (硬質塩化ビニール)	内径(mm)	40～300
	放流管				
	汚泥移送管・エアリフト管		PVC		40～150
	送気管		PVC		13～100
	マンホール		铸铁/レジンコンクリート プラスチック(PP/FRP)		600
	チェッカープレート		縞鋼板/铸铁/FRP		600×1000 600×1200 750×1150 750×1650 1200×1200
	注) 寸法の単位はmm、容量の単位はm ³ とする 注) 容量、寸法については範囲で示す。 注) 「深さ」は有効水深とする。				
特 記 事 項	・振動・騒音・防音対策は必要に応じて行う。				
	・流入・設置条件によりオプション槽を組み合わせる。				
	・オプション槽とは原水ポンプ槽、油水分離槽、汚水貯留槽、処理水貯留槽、水中ブロウ槽などを言う。				
	・必要に応じて消泡装置を設ける場合がある。				
	・脱離液流出管は合流せず、それぞれの系列から流量調整槽へ配管する場合がある。				
保 守 点 検 の 頻 度	・非常用排出管はいずれかの系列の移流管と合流し固液分離槽へ配管する場合がある。				
	保守点検の頻度：1回/2週 以上 清掃の頻度：1回/2週 以上				



- ・流量調整槽は1管体もしくは複数のFRP製管体を連続して配置する。
- ・汚泥濃縮貯留槽以降の管体は、1管体もしくは複数の同構造の管体を並列に配置する。
- ・流調分配計量ボックスは2分配または3分配とする。
- ・放流(ポンプ)槽は2～4系列ごとにまとめる場合がある。
- ・脱離液流出管は合流せず、それぞれの系列から流量調整槽へ配管する場合がある。
- ・非常用排出管はいずれかの汚泥濃縮貯留槽以降の管体の移流管と合流し固液分離槽へ配管する場合がある。